

2024 年度年次報告書

社会課題を解決する人間中心インタラクションの創出

2024 年度採択研究代表者

濱本 裕美

東北大学 学際科学フロンティア研究所

助教

価値観の多軸化によるルッキズムからの脱却

研究成果の概要

2024 年度は本研究の 3 つの研究テーマの 1 つ、身体像の歪みの神経基盤の解明に主に取り組んだ。2025 年度以降に MRI 実験実施を予定しており、その際に提示刺激として利用する 3D 身体モデルの作成と、被験者選定基準を決めるための調査を実施した。まず、身体像の歪みを調べる際に利用する提示刺激として、人間生活工学研究センターの日本人の人体寸法データ 2004-2006 を元に、3D 身体モデルを作成した。この提示刺激を用いて、18～29 歳の日本人健常男女 402 名(男性 193 名・女性 209 名)を対象に、オンライン調査を実施した。被験者はパソコンのディスプレイ上に表示された 3D 身体の大きさをスライダーで調整し、「自分だと思ふ大きさ」あるいは「理想だと思ふ大きさ」になるように変更した。結果、男女ともに自身の身体の大きさを過小に見積もる傾向があること、並びに自分の身体は理想的な体型よりも太っていると感じていることがわかった。さらに、この理想とのギャップの程度は女性の方が男性よりも有意に高かった。また、男性が理想とする体型は、WHO 基準で健康とされている範囲(BMI18.5～24.9)に含まれていたものの、女性が理想とする体型は WHO 基準で定められた痩せの基準(BMI<18.5)を大きく下回っていたことから、日本人若年女性は不健康な像を理想としていることが示された。また、日本人若年女性を対象とした同様の先行研究の結果と比較したところ、およそ同様の結果が得られていたことから、今回作成した 3D 身体刺激について、少なくとも日本人若年女性を対象とした研究に用いることの妥当性を確認できた。